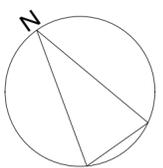


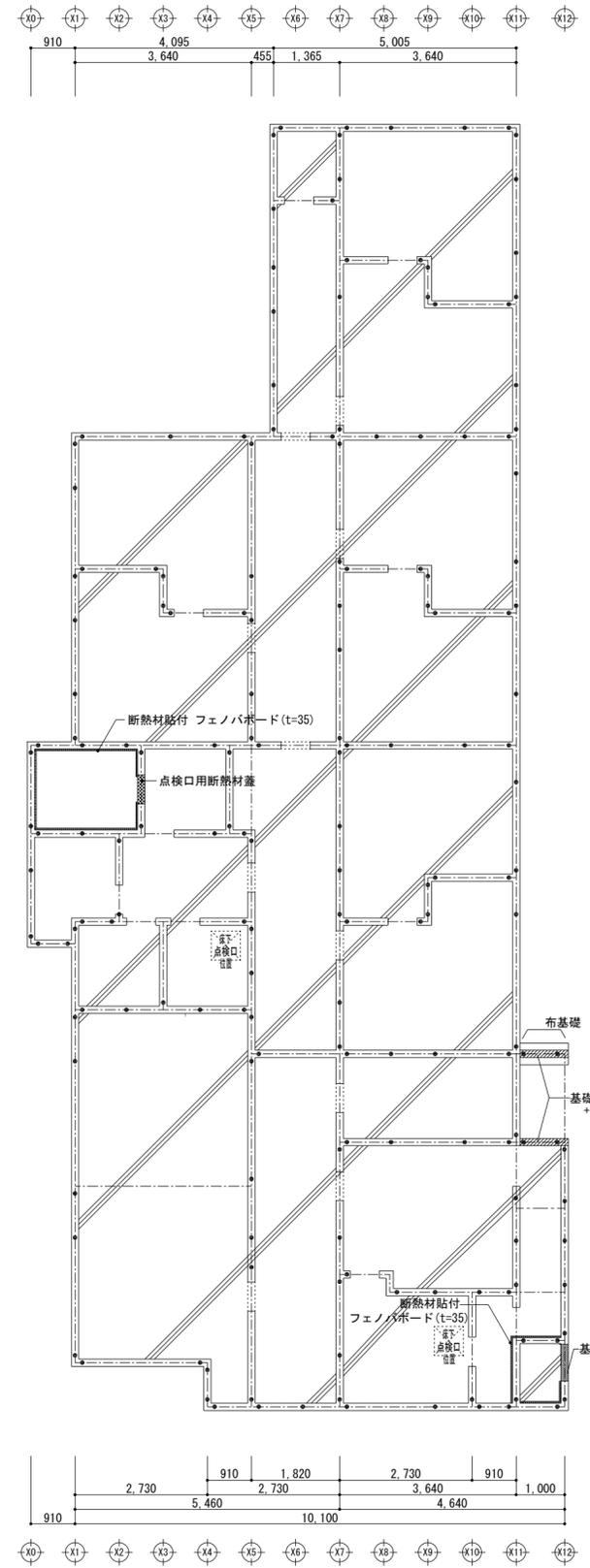
補強体伏図 S=1/100

地盤改良工法：砕石パイル（エコジオ工法）
直径 420φ、長さ 1.5m、数量 86本



- べた基礎コンクリート
t=150 D13@150(ソックル) 打33共
1. コンクリート：F_c = 24 N/mm²・スランプ 15cm
 2. 鉄筋：SD295A
 3. 基礎の位置は、芯振り分けとする。

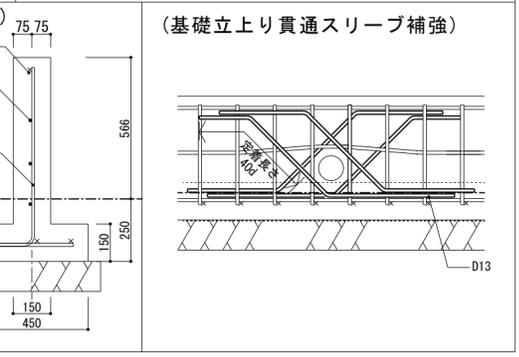
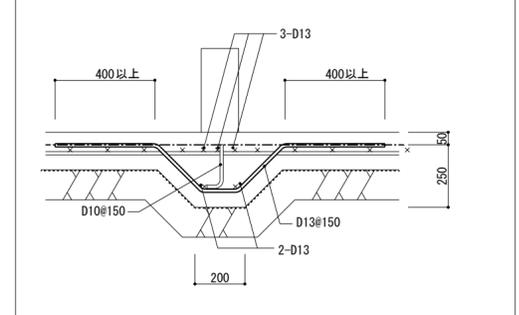
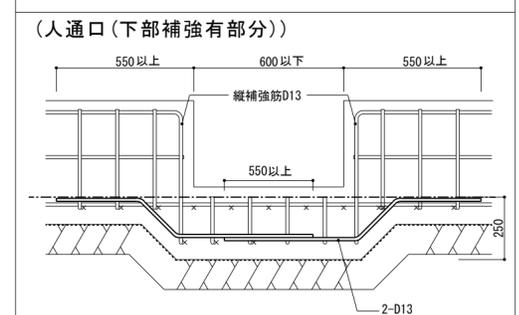
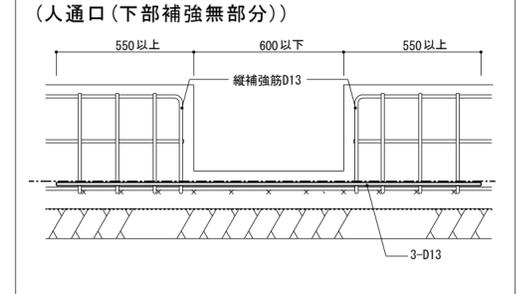
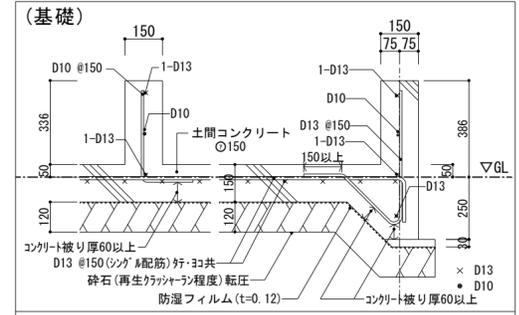
- 人通口（下部補強有り：詳細図参照）
□ 人通口（下部補強無し：詳細図参照）

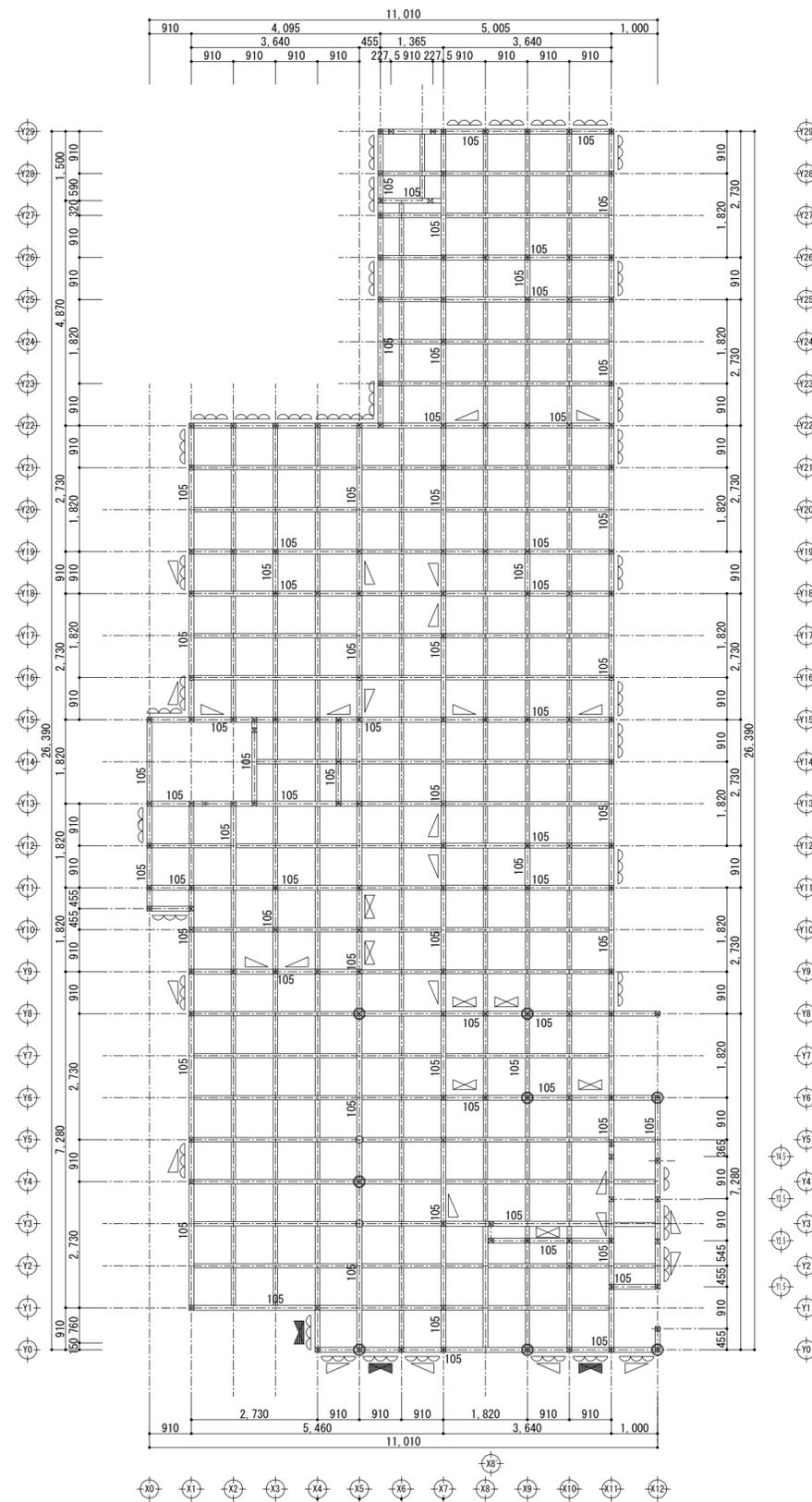


基礎伏図 S=1/100

- アンカーボルト φ13、L600 (M12)
埋め込み長さ250mm以上 柱芯から150mm程度
間隔2.7m以内
土台継手の上木端部、土台切れの箇所
耐力壁の両端部
省略可能部：①面材耐力壁が連続する場合、2m以内の中間部
②筋交いの上端が取り付く柱の下部付近のアンカーボルト間距離が2m以内の場合、
筋交い下端の取り付く柱付近

雑詳細図 S = 1 / 20



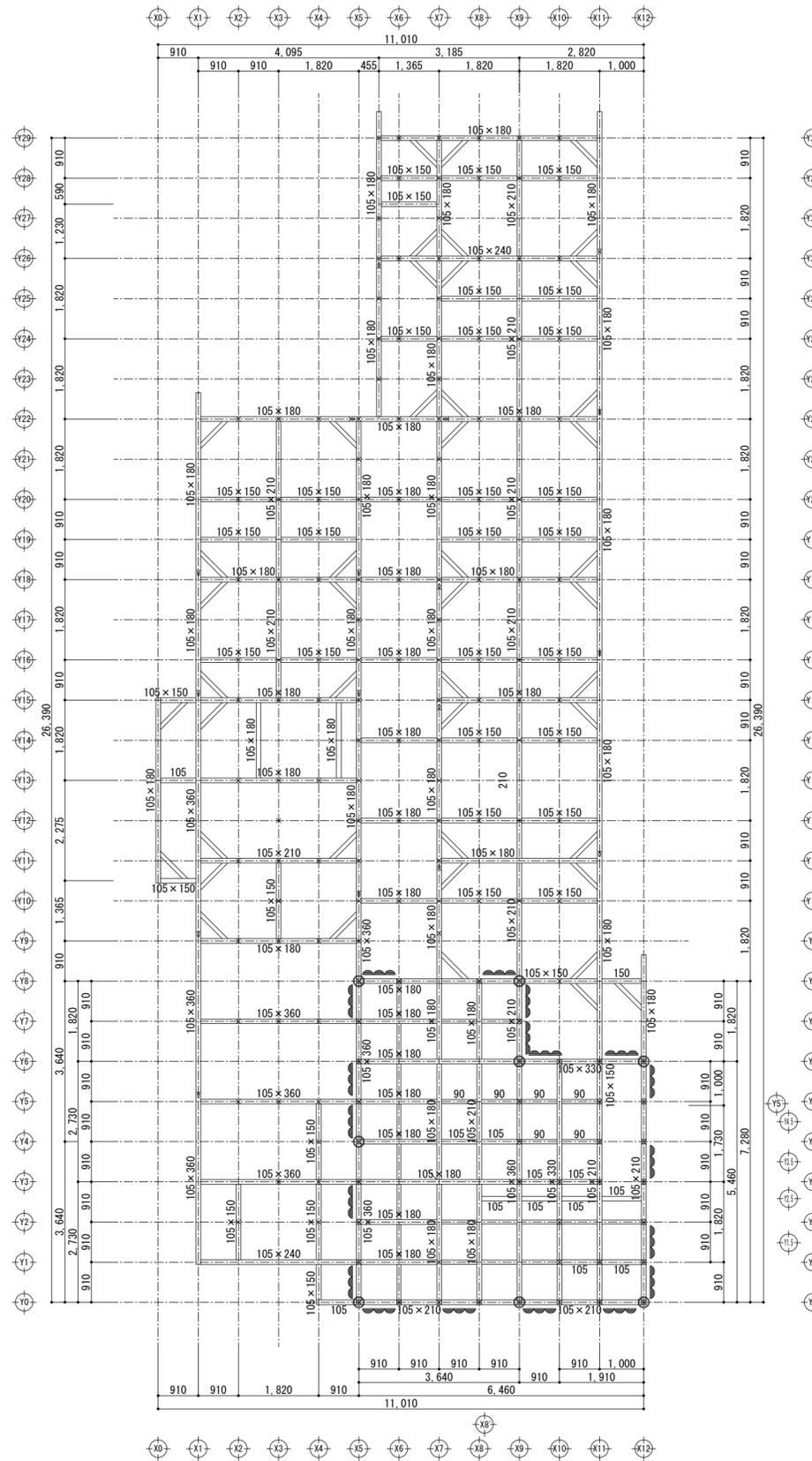
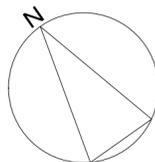


1階床伏図 S=1/100

土台パッキン：基礎全周に敷き込むものとする。キノパッキンロング(城東テクノ)同等品以上とする。
浴室周囲基礎、勝手口周囲基礎は、気密パッキンロング(城東テクノ)同等品以上とする。

1階柱 有効細長比：1/30

柱の面積 10.5×10.5=110.25(cm²)
柱の長さ 1階：264(cm)
断面二次モーメント 10.5⁴/12=1012.921875
=1012.92
断面の最小二次半径 √(1012.92/110.25)=3.031086
細長比 264/3.03=87.129≦150

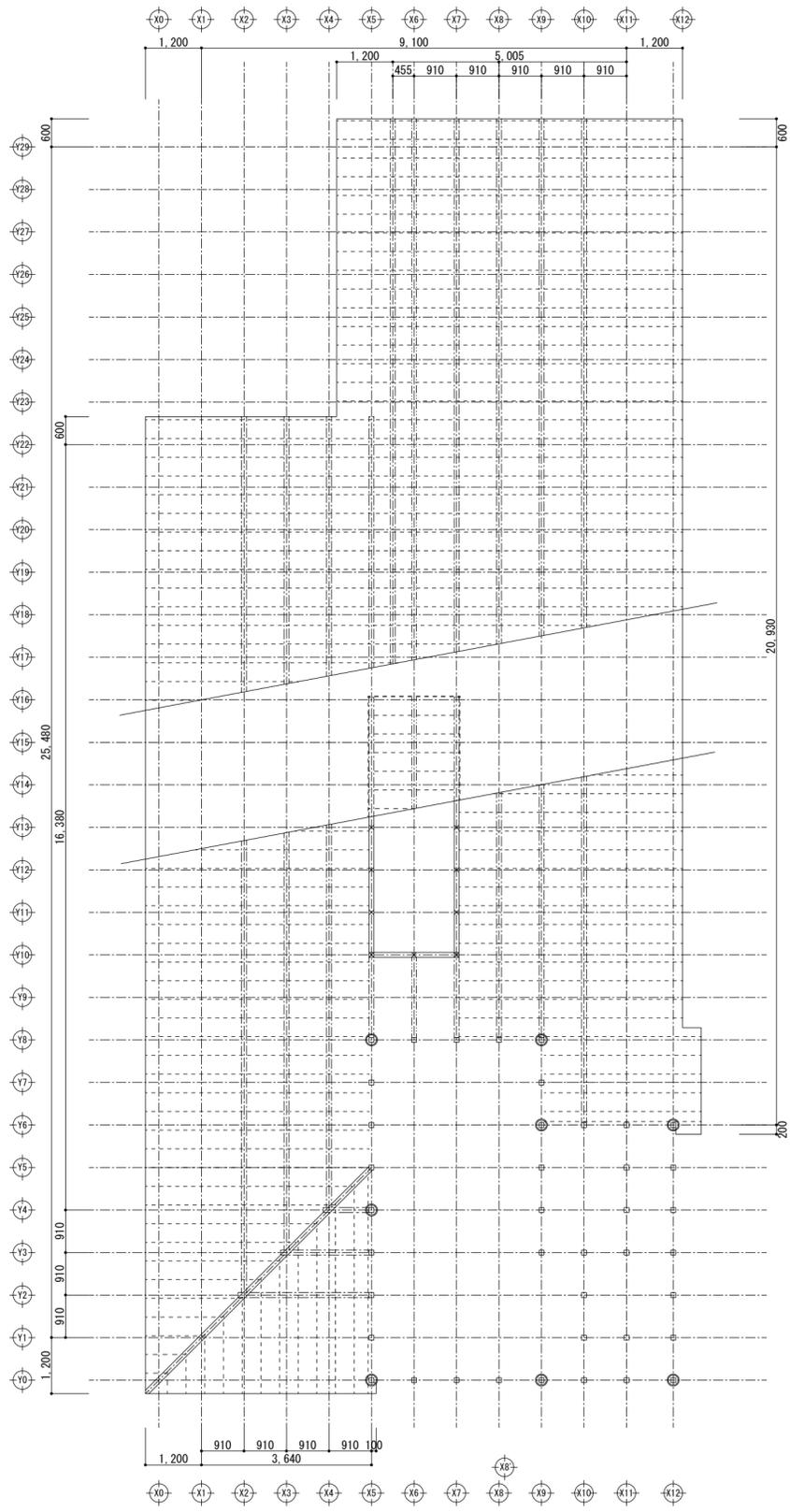


1階小屋伏図・2階床伏図 S=1/100

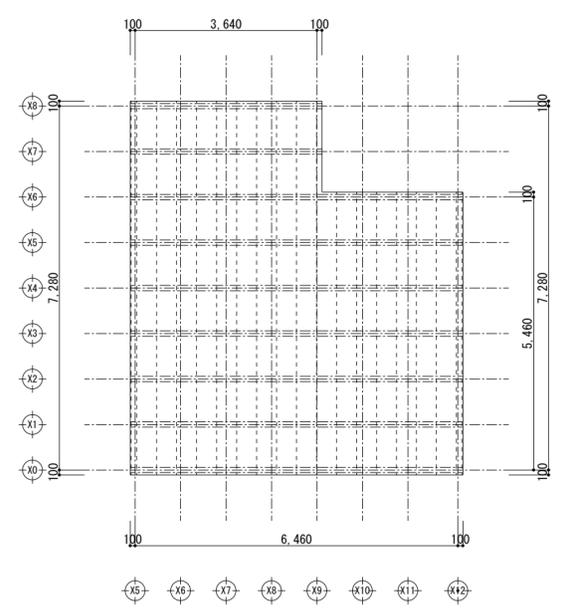
2階柱 有効細長比：1/25

柱の面積 10.5×10.5=110.25(cm²)
柱の長さ 2階：91(cm)
断面二次モーメント 10.5⁴/12=1012.921875
=1012.92
断面の最小二次半径 √(1012.92/110.25)=3.031086
細長比 259.9/3.03=85.776≦150

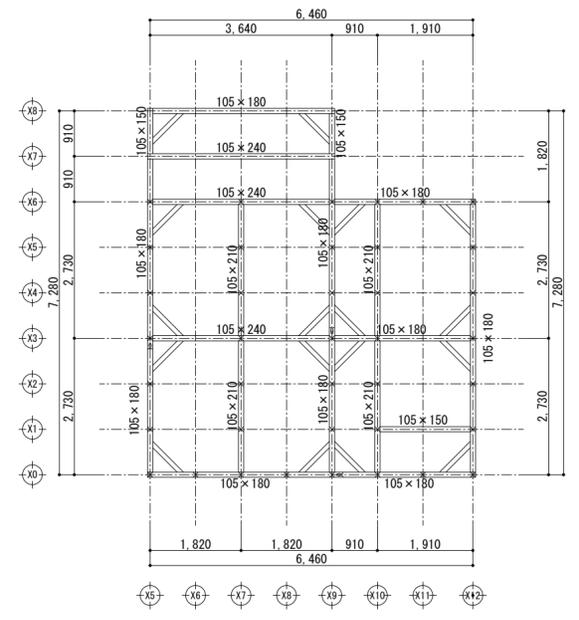




1階母屋伏図 S=1/100



2階母屋伏図 S=1/100

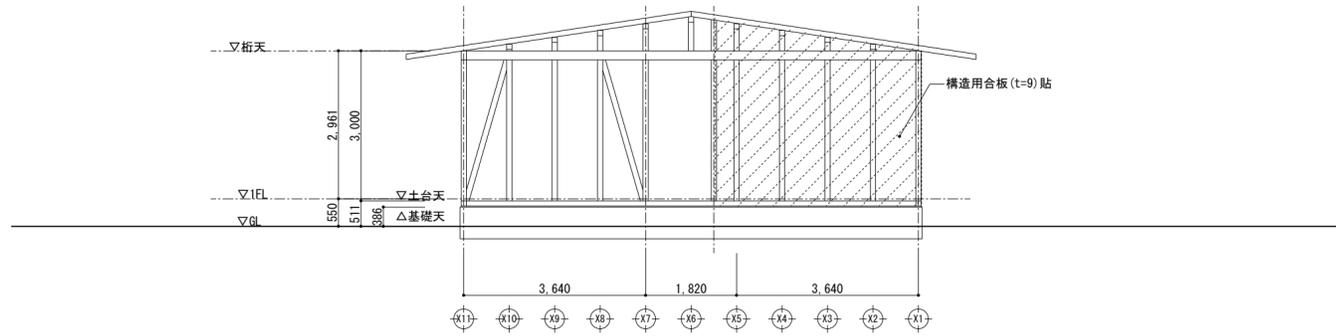


2階小屋伏図 S=1/100

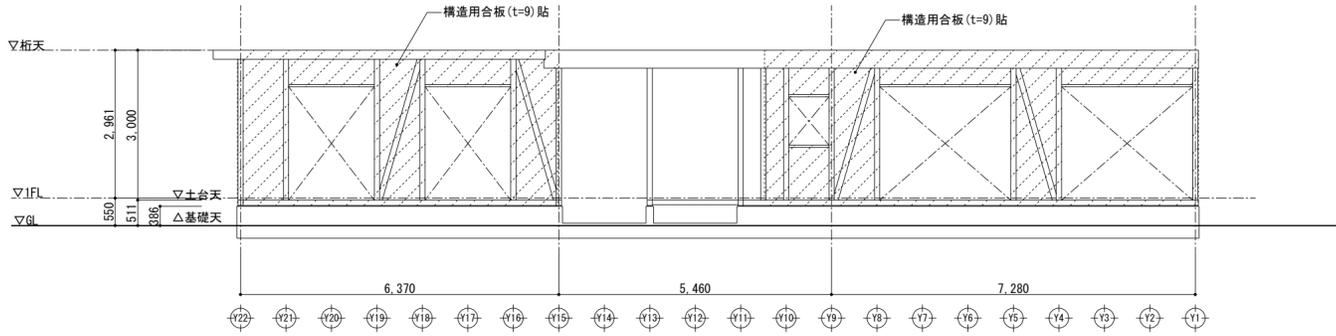
・外壁内部の土台及び柱の防腐・防蟻措置は桧材を使用することとする。
 ・桧材によらない間柱、筋かい等の防腐・防蟻措置は地面から1m以上まで公益社団法人日本しろあり対策協会又は木材保存協会認定の防腐・防蟻剤にて現場処理とする。

凡例

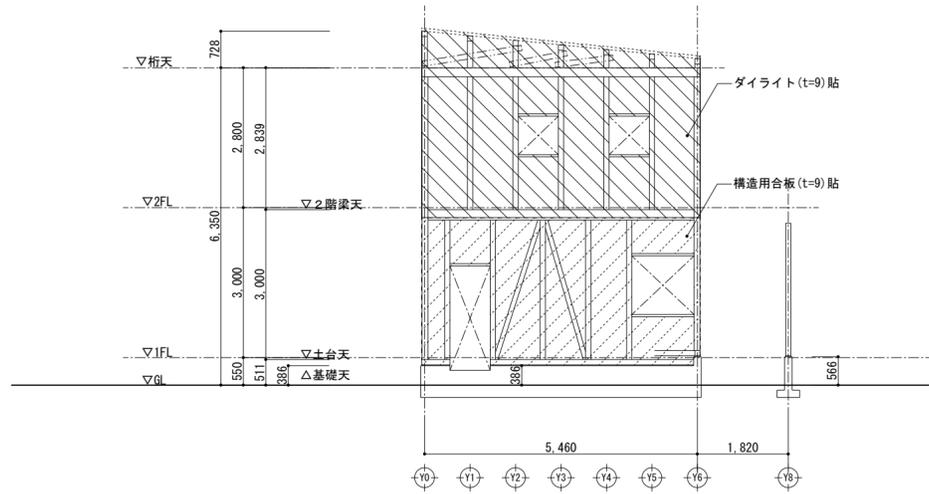
記号	部位	断面寸法	材種	備考	記号	部位	断面寸法	材種	備考
⊗	管柱	105×105	桧	背割無・乾燥特1等	≡≡≡	桁はり		米松	乾燥1等
⊙	通柱	120×120	桧	背割無・乾燥特1等	----	1階屋根垂木	105×45 @403	米松	乾燥1等、ビス留めつけ
⊗	束		鋼製	高さ調整機能付	----	2階屋根垂木	60×45 @403	米松	乾燥1等、ビス留めつけ
×	柱(小屋束)		米松	乾燥1等	==	母屋	105×105 @910	米松	乾燥1等
	土台	105×105	桧	背割無・乾燥特1等	≡≡≡	棟木	120×120	米松	乾燥1等
	大引	90×90 @910	桧	背割無・乾燥特1等	≡≡	火打梁	90×90	米松	乾燥1等
	間柱	105×105	WW	乾燥1等	■	耐力壁	構造用合板		壁倍率2.5
△	筋かい	90×45 シングル	WW	乾燥1等	■	耐力壁	構造用合板		壁倍率2.5
⊠	筋かい	90×45 ダブル	WW	乾燥1等	●	アンカーボルト	φ13 L600(M12)		間隔2.7m以内
									埋め込み長さ250mm以上 柱芯から250mm内外



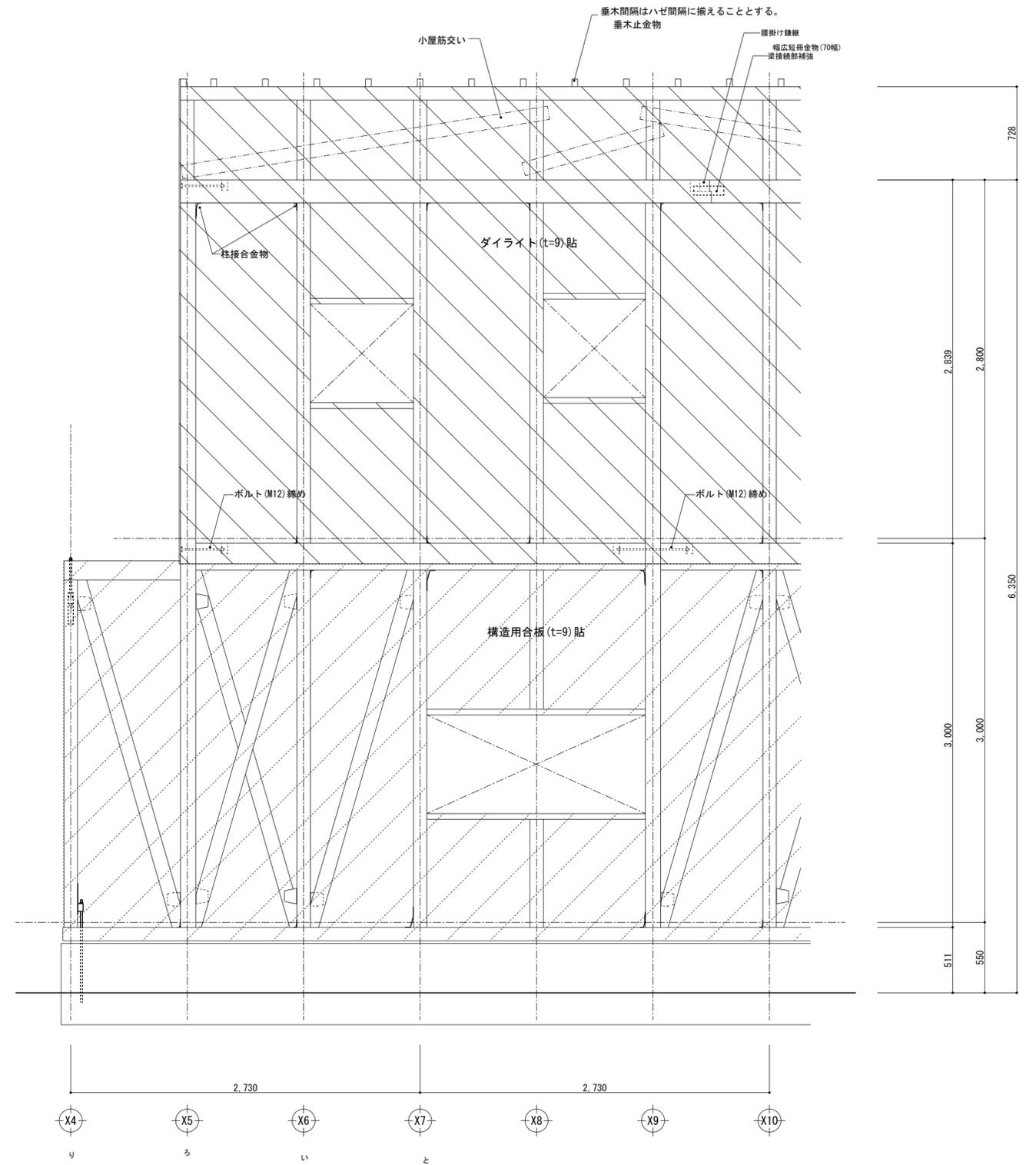
Y22通り軸組図 S=1/100



X1通り軸組図 S=1/100

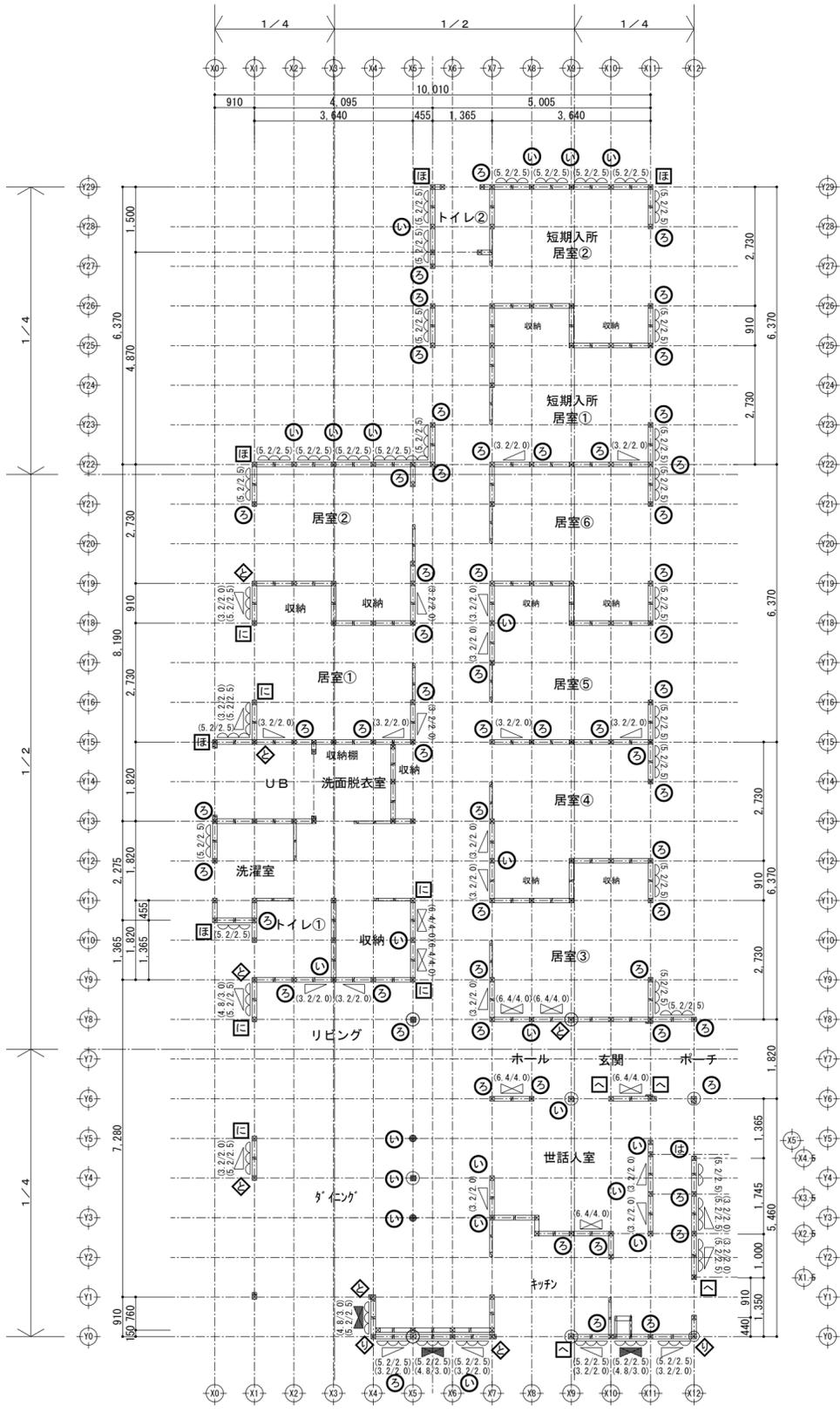


X12通り軸組図 S=1/100

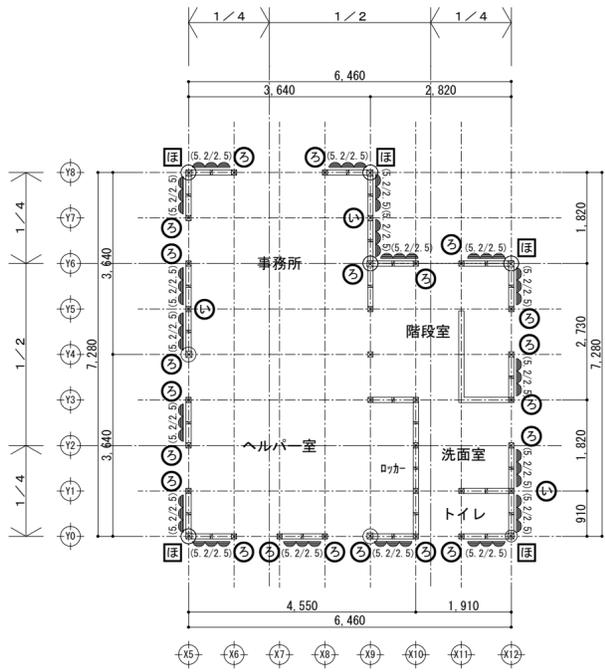
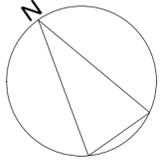


Y0通り軸組詳細図 S=1/30





1階 N値金物配置図 S=1/100



2階 N値金物配置図 S=1/100

柱・筋かいの部材リスト

※	管柱	105×105	
横架材間の垂直距離：2900(最長) 柱の小径の判定：2850×1/28=101.8<105 ○K 柱の小径の判定：2850×1/28=101.8<105 ○K 有効細長比の判定：2850×105=27.14<43.3 ○K			
◎	通柱	120×120	
上	筋かい	90×30 シングル	壁倍率1.5 令46条4項表1(3)の軸組
上	筋かい	90×45 シングル	壁倍率2.0 令46条4項表1(4)の軸組
上	筋かい	90×30 ダブル	壁倍率3.0 令46条4項表1(6)の軸組
上	筋かい	90×45 ダブル	壁倍率4.0 令46条4項表1(6)の軸組
上	耐力壁	ダイライト(t=9)	壁倍率2.5
上	耐力壁	構造用合板(t=9)	壁倍率2.5

継手仕口金物リスト

特記なき場合以下による

位置	金物の仕様	記号	備考
出隅の柱	V字型金物	㊦	平12建告1460号第二号3(イ)の方法による接合
	スクリュー釘併用羽子板金物	㊧	平12建告1460号第二号3(ロ)の方法による接合
その他の柱	L字型金物	㊨	平12建告1460号第二号3(ろ)の方法による接合

柱接合金物

Nの値	必要耐力	告示1460号表三記号	選定金物 (Z型同等品)
0以下	0.0kN	㊩	短ホソ差し
0.65以下	3.4kN	㊪	フラットプレート・コンパクトコーナー
1.0以下	5.1kN	㊫	
1.4以下	7.5kN	㊬	
1.6以下	8.5kN	㊭	オメガプレート・シナーコーナー
1.8以下	10.0kN	㊮	
2.8以下	15.0kN	㊯	
3.1以下		㊰ _{N3.1}	オメガコーナー15kN用(N値3.1以下)
3.7以下	20.0kN	㊱	オメガコーナー20kN用(N値4.6以下)
4.6以下		㊲ _{N4.6}	オメガコーナー20kN用(N値4.6以下)
4.7以下	25.0kN	㊳	ホールダウン25kN用
5.6以下	30.0kN	㊴	ホールダウン35kN用

・接合部仕様は、㊱ 平成12年建設省告示第1460号に適合する仕様とする。